

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

書くこと部 研究主題 学習改善・授業改善につながる評価活動の充実
児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

第3学年国語科学習指導案

単元名 めざせ！へんしん☆ものしりはかせ！ —変化するものを調べて友だちに報告する文章を書こう—

学習材名「食べ物のひみつを教えます」
(光村図書 3年下 令和2年)

日 時：令和4年12月2日(金)5校時
児 童：荒川区立赤土小学校 第3学年1組 28名
担 任：荒川区立赤土小学校 主任教諭 松村 優子

1 単元の目標

- 比較や分類の仕方を理解し、使うことができる。〔知識及び技能(2)イ〕
- 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等B(1)ア〕
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで文章を書き、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○比較や分類を理解し、使っている。(2)イ ○幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ	○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。B(1)ア	○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、粘り強く、伝えたいことを明確にしようとしている。 ○学習の見通しをもって、文章の説明の工夫を見付け、それを生かして書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

本学級の児童は、「仕事のくふう、見つけたよ」では、学校で働く人たちの仕事とその工夫について調べ、報告する文章を書く学習をした。本学習では、学校で働く人たちに話を聞いたりインタビューをしたりして情報を集めたり、集めた情報を内容のまとまりに整理したり、「始め・中・終わり」の構成で書いたりすることを学習した。児童は、相手意識、目的意識をもち、楽しく学習に取り組んでいたが、集めた情報を内容のまとまりで整理したり、「中」をどのような順番で書けばいいか考えたりすることは十分ではなかった。

「すがたをかえる大豆」(光村図書 3年下 令和2年)では、「中」で、大豆をおいしく食べる工夫とその食品例についてどのように書かれているかを読み取った。本学習を通して、児童は、大豆をおいしく食べる工

夫をすることで、様々な食品になることに興味関心をもち、他にも姿を変える材料を調べたいという気持ちを抱いた。

そこで、「すがたをかえる大豆」での学習への興味関心を生かして、他にもすがたをかえる材料を調べて報告する文章を書くという学習の動機付けとした。また、本単元では、「情報の整理」、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」を指導の重点とした。集めた情報を比較・分類したりする力や、情報を選んで伝えたいことを明確にしたりする力を身に付けさせたい。

(2) 学習材について (学習材観)

本単元は、教科書教材「すがたをかえる大豆」での学習を生かして、すがたをかえて(変身して)食品や品物になるものを調べて、報告する文章を書く学習である。わたしたちの身の回りのものの中には、「変身」(加工)によって生み出されている物がたくさんある。ものが姿を変えていくことのおもしろさや、新たな発見、加工の工夫などに興味関心をもち、調べたいことを決めて、工夫とその例を調べて、報告する文章にまとめる。

本単元の学習材は、「始め・中・終わり」の文章の構成である。始めには調べたもの、中には工夫とその例、終わりにはまとめを書く。「何について調べたらいいかな。」という児童の思いからスタートし、読み手に分かりやすい文章を書くという相手意識、目的意識をもって書くことができる学習材である。

(3) 単元について (単元観)

本単元では、「ものの姿が変わっていく」ことの面白さや驚き、そして、「人々の生活に役立っている」ことを調べ、集めた情報から書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、相手に伝えたいことを明確にした文章を書く単元である。

食べ物の変化だけでなく、例えば、「木」「水」「鉄」「プラスチック」など、変化する物を広く捉え、児童の興味関心に応じて、調べるものを決められるようにする。食べ物と品物の文例を示し、どのような内容を、どのような順序で書けば、相手に伝わる文章になるのか、児童が単元全体の見通しをもって学習を進めていく。言語活動では、書き終えた文章を始め・中・終わりで切り分け、画用紙に貼ってリーフレット形式や本形式に仕上げる。表紙にあたる部分に「始め」、ページをめくると「中」、そして、最後のページに「終わり」を書くように工夫する。この表現方法により、児童が段落の意識や「始め・中・終わり」の文章の構成を理解できるようになることが期待される。さらに、仕上げには、読み進めないで何について書いた文章なのかが分からないように意図的に言葉を隠し、最終的に何について書かれていたのか、答えが分かるような装丁にしたい。児童が記述した報告する文章を「ものしりはかせになろうクイズ」として発表することを通して、わくわくしながら作品を読み、交流できるようにする。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

本単元では、児童が自らの学習や生活の中から、達成したい目標や解決したい課題を見付け、それを叶えるための学習活動を進める上で、必要な知識・技能を知り得て使い、思考・判断・表現を行う経験を通して実感をもった知識を獲得していくことを目指す。具体的には、学習計画&ふりかえりシートや学習感想による自己評価によって取組や進み具合を俯瞰で捉えて次の学習活動へ生かす学習の個別化と、他児童の考えに触れたり、手助けを得たりする対話的な書くことによる学びを促す。これらを通し、自らの考えを明確にし、物の見方や考え方を意識的に捉えることを期待する。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

本単元を通して、「相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力、判断力、表現力等B(1)ア〕」の力を伸ばすために、題材の設定や情報の収集、内容の検討における手立てを工夫して、本教材を組み立てていく。児童が興味関心をもち取り組めるような、学びの必然性がある課題に着目できるよう、資料を提示し、「ものしりはかせになろう」クイズで、加工品に興味をもたせたい。

選材や集材を丁寧に行う学習過程を進めることで、後半の「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等B(1)ウ〕」という、考えの形成の学習場面に繋げることができるようにする。

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

○豊かな語彙の拡充につながる指導

読むこと「すがたをかえる大豆」を学習する際に、「すがたをかえること」すなわち、「加工する」という行程において使われる言葉を集め、教室内に掲示する。また、順序を表す言葉（次に、また、さらになど）も取り上げ、書くことの学習において生かせるようにする。教材文の中で「工夫」と表現されている言葉に着目し、辞書を活用しながら語彙を拡充し、自己の作品にも取り入れることができるような指導を行う。

○学習の成果物等の活用・共有を図ることによる、学びを積み重ねる指導

友達同士で、互いの作品を読み合い「ものしりはかせになろうクイズ」を通して、加工品への興味関心を広げる。また、書き上げた文章を、同学年の他学級児童に読んでもらうことで、相手意識・目的意識をもち、意欲的に学習に取り組めると考えた。

（3）評価活動の工夫

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を捉える評価の工夫

言語活動の特徴や個の学習状況に応じた評価活動を行い、児童一人一人の学びの変容を見取るようにする。そのための手立てとして、「座席表型評価簿」を活用する。座席表を基にした評価簿を活用することによって、前時までの児童の実態と本時の支援を明確に示し、児童全員が「おおむね満足できる状況」を達成することを目指す。これにより、児童がどのような状況にあるのか、教師がすぐに把握することができ、適宜、助言することも可能になる。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

児童の「学習計画&振り返りカード」の記述を基に、教師が、児童へ励ましの言葉やアドバイスをする。また、ノート・ワークシート、課題への状況を鑑みる。これらを通し、教師が児童個人の学習状況を把握し、次の時間の支援や指導にも生かす。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

自らの学びを見直し、振り返り、調整するための手立てとして、毎時間の学習活動と、学習活動を達成するためのチェック項目、そして、個々の学びを振り返ることができる複合的な「学習計画&振り返りカード」を作成する。このカードへの記述により、児童自ら、「次はこうしよう」という学びの調整に気付くヒントとなることが期待される。また、交流の際には、交流の観点を示して、児童同士が相互評価できるようにする。本時の学習活動のチェック項目を確認し合ったり、加除修正したりすることが容易になると考える。

5 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	指導事項	○指導上の留意点 ◆評価規準 ★評価方法
0次		<ul style="list-style-type: none"> ・科学読み物にふれる。 ・食べ物や物について書かれた本にふれる。 ・食べ物以外にも、「すがたを変えて、人々の生活の中で使われている物、人の役に立っている物」などについて、資料を集める。 		
第一次	1 題材の設定	1 学習の計画を立て、学習の見通しをもつ。調べたいことを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的を意識して経験したことや想像したことなどから書くことを選ぶこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「へんしん☆ものしりはかせになろう」クイズで、学習への興味関心を高める。 ○「すがたをかえる大豆」で学習した加工食品を基に、それ以外にも「姿を変えて、品物になっているものは何か。」という視点を加えて考えさせる。 ○「食べたことがある」「おいしい」「不思議」「知りたい」など、児童の興味関心を広く共有する。 ◆学習の見通しをもって、文章の説明の工夫を見付け、それを生かして書こうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕★ワークシート ◆相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選んでいる。〔B（1）ア〕 ★ワークシート
第二次	2 情報の収集	2 目的を意識して情報を収集する。	<ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類の仕方を理解し、使うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文献を活用し、必要な情報（工夫とその例）を収集して、工夫は黄色の付箋、その例はピンクの付箋に書く。 ◆比較や分類の仕方を理解し、使っている。〔知識、技能（2）イ〕★ワークシート ◆幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得るのに役立つことに気付いている。〔知識、技能（3）オ〕★ワークシート
	3 内容の検討 【本時】	3 情報を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「中」に書く情報を集め、整理し、活用する。工夫（加工の仕方）と具体例を結び付けてまとめること。自分が伝えたい内容を選ぶこと。 ○早く終わった児童は、どのような順序で書くかよいかを考える。 ・簡単な加工から、複雑な加工へ ・よく食べているものから ・身近な物から など ○使わなかった付箋も残しておき、構成や記述で生かせるようにする。 ◆集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔B（1）ア〕 ★ワークシート
	4 構成の検討	4 文章の構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関 	<ul style="list-style-type: none"> ○文例を読み、構成を確かめる。 始め：説明する材料について 中：工夫とその例 終わり：まとめ ○「中」の構成では、いくつかの工夫を示すことで、より具体的に分かりやすくなることを知る。また、一文目に、「段落の中心となる内容」（例 ○○という工夫があります。）を書いていることを確かめる。

			係に注意したりして、文章の構成を考慮すること。	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを見直して、必要に応じて内容を加除修正したり、順序を入れ替えたりする。(取材・構成) ○様々な友達と構成メモを読み合い、「始め」「中」「終わり」がつながるようになってきているか、「中」の順序はどうか、確かめる。 ○交流後、必要に応じて、加除修正する。
	5・6 考への形成・記述、 7 推敲	<p>5・6 構成メモ基に、報告する文章を書く。</p> <p>7 書いた報告する文章を読み返し、推敲する。 装丁を整え、完成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。 ・文書を読み返し、間違いを正すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良くない点のある文例で、再度構成を確かめる。 ○「中」は、どのような工夫があり、その例は何かということが、読み手に伝わるように書く。 ◆経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、粘り強く、伝えたいことを明確にしようとしている。 〔学びに向かう力、人間性等〕 ★ワークシート ○「すいこうのポイント」を見ながら、推敲する。 ・工夫と例が書けているか。 ・～です。～ます。などの文末表現の統一、接続詞の適切な使い方、「このように」まとめを示すなど。 ・句読点が正しく使えているか。 ○まず、自分で読み返す。次に、書き終えた児童同士で推敲する。 ○清書した報告文を「始め」「中」「終わり」で切り分けて画用紙に貼り、リーフレット形式に仕上げる。
第三次	8 共有	8 友達と報告する文章を読み合い、感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書き方についてよいところを見付ける。 ○内容についてよいところを見付ける。 ○書こうとしたことが明確になっているかという視点で相互評価する。 ◆言葉がもつよさを感じるとともに、国語を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。 〔学びに向かう力、人間性等〕 ★ワークシート
実の場		<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体でも作品を共有。掲示、または、展示方法を工夫し、知識を広げて、めざせ！へんしんものしりはかせになる。 ・完成した文章を同学年の他学級の児童に読んでもらう。 ・互いに感想を伝え合い、自己肯定感を高めたり、書いてよかったという成就感を味わったりできるようにする。 		

6 本時の学習（3／8時間）

（1）本時のねらい

○集めた材料（工夫とその例）を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にする。

（2）展開

学習活動	指導事項	○指導上の留意点 ◆評価規準 ★評価方法
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。		○学習のゴールを確認するために、文例を音読する。 ○学習計画&振り返りを読み、本時のめあてを確認する。
集めた材料（工夫とその例）を整理して、伝えたいことをはっきりさせよう。		
2 教師の例を基に、情報の整理の仕方を考える。		○集めた材料の比較、分類の仕方を確認する。 ・集めた材料（付箋）の中から、伝えたいことを選ぶ。 ・工夫（黄色の付箋）とその例（ピンクの付箋）の組み合わせを確かめる。 ○文例を確認し、教師の付箋を基にしてワークシートを作ることで、情報の整理の仕方について考えられるようにする。
3 情報を整理する。	・集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	○「座席表型評価簿」に記した前時までの児童の実態と本時の支援を活用して、机間指導をする。 ○必要に応じて、本を見て情報を集めたり、工夫とその例の組み合わせを確認したりするように助言する。
4 友達と交流する。		○本時のめあてを確認し、交流の視点を示す。 ○同じ題材を調べている児童同士で、交流するようにする。
5 ワークシートをもう一度見直し、検討する。		○ワークシートが完成した児童は、構成（中の順番を検討する）を考え始める。 ◆集めた材料（工夫とその例）を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。〔B（1）ア〕 ★ワークシート
<p>○<u>おおむね満足できる児童への次時以降の手立て</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で、工夫とその例の組み合わせを確かめていた。次時は、その組み合わせを、文章の構成「中」でどのような順番で書くかを考える。 <p>○<u>おおむね満足できる状況を目指す児童への次時以降の手立て</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材に立ち返る。 ・取材したことから、付箋を書く。 ・チェックシートを活用する。 		
6 本時の学習を振り返り、次時につなげる。		○本時のめあてについて、振り返るように助言する。